

類稀なる才能、深い信頼で結ばれた二人が紡ぐ至高の音楽

# 庄司紗矢香 ジャンルカ・カシオーリ

*Sayaka Shoji & Gianluca Cascioli*

—— デュオ・リサイタル ——

## Program

モーツァルト: ヴァイオリン・ソナタ第24番 へ長調 K. 376

Mozart: Violin Sonata No. 24 in F Major, K. 376

ブラームス、ディートリッヒ、シューマン: F.A.E ソナタ

Brahms/Dietrich/Schumann: F-A-E Sonata

ダラピッコラ: タルティニアーナ第2番

Dallapiccola: Tartiniana seconda

ブラームス: ヴァイオリン・ソナタ 第1番 Op.78「雨の歌」

Brahms: Violin Sonata No.1 Op.78

2026.3/6 (金) 19:00開演 サントリーホール  
18:20開場

東京外口「蒲池山王駅」13番出口徒歩10分 東京外口「六本木一丁目駅」3番出口徒歩5分

7:00 p.m., Friday, March 6, 2026 at Suntory Hall

S¥8,500 A¥7,500 B¥6,500 C¥5,500

※料金には消費税10%が含まれております。

※先行発売で満席となった席種は以降発売されない場合がございます。※特別割引チケットについては裏面をご覧ください。

[お申込み] ジャパン・アーツぴあ 0570-00-1212 [www.japanarts.co.jp](http://www.japanarts.co.jp)

◎ サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 [suntory.jp/HALL/](http://suntory.jp/HALL/) ◎ チケットぴあ [t.pia.jp](http://t.pia.jp) [Pコード:310-260]

◎ イープラス [eplus.jp](http://eplus.jp) ◎ ローソンチケット [l-tike.com](http://l-tike.com) [Lコード:31006]

主催: ジャパン・アーツ 協力: ナクソス・ジャパン



おかげさまで50年  
JAPAN ARTS

一般発売  
10/25(土)

ジャパン・アーツぴあ  
オンラインチケット  
10/18(土)

# 自由、されど根拠をもって

庄司紗矢香にとって、2009年のジャンルカ・カシオーリの初共演は、大きな転換点だったという。

たとえばモーツァルトのヴァイオリン・ソナタをひくときに、庄司が子供のころから教わってきた、さまざまな規則やタブーといった「枠」。その「枠」にしばられることに窮屈さを感じ、もっと自由な表現を内心では求めていた庄司の、よりオーガニックで人間的な演奏を実現する夢をかなえてくれたのが、カシオーリの共演だった。それはけっして自分勝手なものではなく、モーツァルトと同時代の18世紀のヴァイオリン教本などの記述に基づいている。つまり、地に足のついた自由、根拠のある独創なのだ。

初共演から15年を超え、「こんなに長くコラボレーションが続くとは、夢にも思わなかった」庄司は笑っていたが、レパートリーは多彩さを増し、表現はさらに情感を深め、息のあったものとなっている。

2022年の公演では、カシオーリのひくフォルテピアノとともに、天翔るようなイマジネーションと繊細さを共存させた、素晴らしい演奏を聴かせてくれた。とりわけ「クロイツェル・ソナタ」の創意と意欲にみちた名演は忘れがたい。

今回は現代のピアノを用いて、18世紀から20世紀にかけての、さまざまな時代の作品を聴かせてくれる。全曲録音を継続中のモーツァルトのヴァイオリン・ソナタからの第24番K. 376に始まり、次に名ヴァイオリニストのヨーゼフ・ヨアヒムのモットー「自由、されど孤独(Frei aber einsam)」の頭文字による3つの音をモチーフに、友人のブラームス、ディートリッヒ、シューマンの3人が共作した、E.A.Eソナタ。ブラームス作曲のスケルツォ楽章が有名なが、他の楽章は演奏機会が少ないだけに、ここでその真価を知ることができるだろう。

続いて18世紀のタルティーニの旋律をモチーフにした、20世紀のダラピッコラによるタルティーニアーナ第2番。18世紀と20世紀の音楽が時空を超えて出会う、庄司とカシオーリのスタイルにぴったりの作品だ。そしておしまいにブラームスのヴァイオリン・ソナタ第1番「雨の歌」。この名曲にもどんな新しい生命が吹き込まれるのか、とても楽しみだ。

音楽評論家 山崎浩太郎

## 庄司紗矢香 Sayaka Shoji

唯一無二の芸術的多様性とレパートリーへの緻密なアプローチで、国際的に認められるヴァイオリニスト。その音楽的言語に対する非凡な洞察力は、これまで拠点を持ってきたヨーロッパと日本、二つの背景の混合に由来する。東京に生まれ、3歳でイタリアのシエナに移住。キジアーナ音楽院とケルン音楽大学で学び、14歳でルツェルン音楽祭にて、ルドルフ・バウムガルトナー指揮ルツェルン祝祭管弦楽団との共演でヨーロッパ・デビュー、及びウィーン楽友協会に出演した。1999年、バガニニ国際コンクールにて史上最年少優勝。以来、ズービン・メータ、ロリン・マゼール、セシモン・ビシュコフ、マリス・ヤンソンス、ユリー・テミルカーノフなど多数の一流指揮者と、イスラエル・フィル、フィルハーモニア管、クリエヴァンド管、ロンドン響、ベルリン・フィル、ロサンゼルス・フィル、ニューヨーク・フィル、聖チェチリア国立アカデミー管、チェコ・フィル、マリンスキー管、NHK響など共演多数。室内楽では、ジャンルカ・カシオーリとの15年にわたる共演のほか、多くのアーティストと積極的に共演を重ねるほか、多様な芸術分野とのコラボレーションでも世界的に高く評価されている。これまでドイツ・グラモフォンから、テミルカーノフ指揮サンクトペテルブルク・フィルとの録音や、メナヘム・プレスラーとのリサイタル・アルバムなど多数リリース。2022年と2025年には、ジャンルカ・カシオーリとのモーツァルト・ヴァイオリン・ソナタのアルバムをリリースした。2016年、芸術分野で顕著な影響を及ぼした者に与えられる「毎日芸術賞」を受賞。2012年日経ビジネスの「次世代を創る100人」に選出。2025年第37回ミュージック・ベンクラブ音楽賞受賞。使用楽器は上野製菓株式会社より貸与されているストラディヴァリウス「レカミエ」1729年製。

## ジャンルカ・カシオーリ ピアニスト／作曲家／指揮者 Gianluca Cascioli

1979年イタリアのトリノ生まれ。ピアノをイモラのピアノ・アカデミーでフランコ・スカラ(カルロ・ゼッキの教え子)に師事。94年ルチアーノ・ベリオ、エリオット・カーター、マウリツィオ・ポリニ、チャールズ・ローゼンが審査員を務めたウンベルト・メーラー国際ピアノ・コンクールで優勝し、国際的な注目を集めた。以来ヨーロッパ、北米、日本の主要な音楽都市に演奏の場を広げている。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ボストン交響楽団、シカゴ交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、ロスアンゼルス・フィル、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団など著名なオーケストラと、クラウディオ・アバド、ウラディミール・アシュケナージ、ジョン・ミンファン、ダニエル・ハーディング、リカルド・ムーティ、ロリン・マゼール、ズービン・メータ、ユリー・テミルカーノフなど名だたる指揮者との共演は数えきれない。また、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ、ユリー・バシュメット、マキシム・ヴェンゲーロフ、フランク・ペーター・ツィマーマン、クレメンス・ハーゲン、ザビーネ・マイヤー、アルバン・ベルク弦楽四重奏団などとも共演。録音活動も積極的に進めており、ドイツ・グラモフォン、デッカ、ノヴァリス、アルモニア・ムンディといったレーベルから数々の作品を発表。庄司紗矢香とはモーツァルトのヴァイオリン・ソナタ(ピリオド楽器による／DGG)などをリリース。カシオーリは、作曲をトリノのジュゼッペ・ヴェルディ音楽院でアレクサンドロ・ル・ロイおよびアルベルト・コッラに師事。彼の作品は、いくつかの作曲コンクールで優勝し、重要な会場で演奏されている。

### 2026年その他の日本公演ツアー

|                                |                                    |
|--------------------------------|------------------------------------|
| 2月26日(木) 住友生命いすみホール            | (問)住友生命いすみホールチケットセンター 06-6944-1188 |
| 2月28日(土) 札幌コンサートホールKitara      | (問)テレビ北海道 011-351-7277             |
| 3月1日(日) 所沢市民文化センター ミューズ アークホール | (問)ミュースチケットカウンター 04-2998-7777      |
| 3月4日(水) ハケ岳高原音楽堂               | (問)ハケ岳高原ロッジ 0267-98-2131           |
| 3月7日(土) 水戸芸術館 コンサートホールATM      | (問)水戸芸術館チケット予約センター 029-231-8000    |

### 〈特別割引チケットのお知らせ〉 ジャパン・アーツびあにて受付

◎シニア・チケット:公演日当日に65歳以上の方はSY7,700にてお求めいただけます。

◎学生席(各席種とも特別割引価格)

残席がある場合に限り、2026年1月16日(金)10:00から受付を開始いたします。社会人を除く公演当日25歳までの学生が対象です。当日は学生証をご提示の上、ご入場ください。(学生証がない場合、一般価格との差額を頂戴いたします。)

◎車椅子の方は、本人と付き添いの方1名までが割引になります。(ジャパン・アーツびあコールセンターのみで受付)

〈次のことあらかじめご承知の上、チケットをお求めください〉①やむを得ない事情により、曲目・曲順等が変更になる場合がございます。②公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。③いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意ください。④演奏中は入場できません。⑤未就学児の同伴はご遠慮ください。また、就学児以上のお子様もご入場には1人1枚チケットが必要です。⑥全席指定です。指定のお席でご鑑賞ください。⑦場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。⑧ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因となりますのでお断りいたします。⑨他のお客様の迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。

## 庄司紗矢香&ジャンルカ・カシオーリ最新録音

### モーツァルト:ヴァイオリン・ソナタ 第25番、第34番、第40番

輸入・販売元:ナクソス・ジャパン

#### ●曲目

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト:  
ヴァイオリン・ソナタ 第25番 ト長調 K.301/293a  
第34番 変ロ長調 K.378/317d  
第40番 変ロ長調 K.454

(録音)2023年12月トリノ CD:NYCX-10507(日本語解説付)3,300円(税込)／輸入盤:A575(オープン価格)

#### ●演奏

庄司紗矢香(ヴァイオリン:クレモナのアントニオ・ストラディヴァリウス1729年頃製作「レカミエ」)  
ジャンルカ・カシオーリ(フォルテピアノ:ウィーンのヴァルター社1805年頃製作楽器のレプリカ)

モーツァルトのドラマ、繊細な感情とユーモア、血の通った音楽を伝えたい一心で、モーツァルト全集録音に取り組んでいます。繰り返しのヴァリエーションやフェルマータのカデンツなど、私たちのワクワクを皆さまにお届けできれば何より嬉しいです。——庄司紗矢香

庄司紗矢香のインタビューがレコード芸術ONLINEに掲載されています。ぜひお読みください。

